

# 令和4年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象） 開催報告

- 1 **趣旨** 将来を担う子供たちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙い、対象者への研修会を開催する。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象** (1) コミュニティ・スクール、地域学校協働活動をすでに導入している、(導入2年目以上)市町担当者、および市町立校園関係者  
(2) 学校運営協議会 関係者  
(3) 地域学校協働活動 関係者（推進員・地域コーディネーターなど）  
(4) 県および市町の社会教育委員  
(5) 地域連携担当教職員（選択研修受講者や希望される方など）
- 4 **日時** 令和4年8月26日（金） 13:30 ～ 16:30
- 5 **会場** 男女共同参画センター（G-NETしが）大ホール（近江八幡市鷹飼町 80-4）  
（新型コロナウイルス感染症に係る情勢により、オンライン参加も可とする。）
- 6 **内容**
  - 講演
    - ・演題：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進  
～『次のステージ』への進め方～」
    - ・講師：山本 裕一 氏  
青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科 学部特任教授  
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター
  - パネルディスカッション
    - ・テーマ：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のよりよい一体的推進を図るために、できることは何か」
    - ・パネリスト：4名 神部 直 氏（米原市立坂田小学校校長）  
木村 真由美 氏（近江八幡市教育委員会生涯学習課指導主事）  
植田 正子 氏（湖南市立下田小学校地域学校協働活動推進員）  
谷 紀子 氏（湖南市立下田小学校地域学校協働活動推進員）
    - ・助言・総括：山本 裕一 氏
- 7 **参加者数** 159名（来場76名、オンライン83名）
- 8 **研修会の概要**
  - ①講演概要  
地域学校協働活動推進員（コーディネーター）が配置される学校はコミュニティ・スクールに対する満足度が高い傾向にある。また、保護者や地域に理解・要望を受けてCSを導入した学校や、教育

委員会による伴走支援体制が整っていると、さらに満足度は高くなる。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進はたいへん有効なものである。しかし、一体的推進を進めることは容易ではなく、「教育は学校が責任を持って行うべきもの」という教員の意識、「地域は余計な口出しをせず、教育は学校に任せておけばよい」という地域の意識を変え、双方ともに腑に落ちる理解が必要である。

先進事例として三鷹市立小・中一貫校における防災教育に関する取組を紹介。災害時、子どもたちもサポートできる立場に周ることができるようになるために、三鷹中央学園では、小・中9年間にわたって、地域の協力を得た防災教育を教育課程に組み込み、地域学校協働活動の一つとして展開されている。総合防災訓練に参加して、学習成果を発表することにより、子どもの自己肯定感が非常に高まる。「支援」にとどまらず、地域と学校がどれだけの熟議を重ねてきたかにより、「協働」の実質化を図ることができる。学校は地域の形成者であり、地域は学校の運営に参画するという当事者意識を持つことにより、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動はより良い一体的推進を図ることができる。



## ②パネルディスカッション概要

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のよりよい一体的推進を図るために、できることは何か」をテーマに、パネリストそれぞれの視点で話し合っていた。

まず、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の成果と課題について」では、成果として取組が少しずつ浸透していくとともに、子どもたちが地域の一員としての自覚を持ち、地域の方々も参画する機会が少しずつ増えてきていることが挙げられた。課題として、地域や学校にもよるが、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について、学校・地域ともに理解が不十分であることも挙げられた。

「ボランティアの高齢化・固定化の課題」では、現在の推進員に次代の方を紹介してもらったり、独自の新聞やSNS、口コミなどを利用し、多くの保護者に情報を伝えることで新しいメンバーを増やしたりするなどの工夫がなされていた。近江八幡市では、市単位での人材バンク「人生伝承塾」を立ち上げ、幅広く活動をカバーしている実態が紹介された。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が有効に作用するためには、学校運営協議会の中に地域学校協働活動推進員の方が参加するようにするなど、委員選出にも工夫が必要であることや、地域連携担当教職員が中心となり、地域と学校をつなぐ体制をしっかりと整備することが必要であること等が出された。

「取組を形骸化させないために」では、坂田小学校から、保護者からの提案を学校運営協議会で話し合い、子どもや多くのボランティアが参加するプロジェクトが紹介された。下田小学校から、「自分が良くしてもらった」と思えた子が成長し、ボランティアとして参加してくれることも多いという報告があった。

最後に山本先生より、楽しくないことは継続できず、また、「しんどい」「やりにくい」という思いを抱いたら、それをどのように解消していくかを議論することはとても大切である。そう考えると、「自主性」と「継続性」は結び付く。また、アンケート等のエビデンス（根拠）に基づく材料から、熟議を展開するとよいことも提案いただいた。



## 9 参加者のアンケートより

- ・学校の教育課程で学んだことが、地域の中で生かされることで、子どもたちの自己肯定感が高まったり、地域に貢献できる機会となったりするところには、「なるほど」と感じました。子どもも、教師も、地域の人も、それぞれに役割があり、当事者意識をもって参加することの大切さについて学ぶことができました。
- ・先進事例から、学校は、地域のサポートを受ける立場ではなく、サポートをする立場であるということを知ることができました。学校の教育課程で学んだことを実際に活かし、地域の方々から認めもらうことにより、子どもたちの自己肯定感に結びつくということを改めて感じました。学校と地域で子どもを育てていくということの重要性を感じました。
- ・山本先生の話に拝聴し、「一体的推進」は「一体」ではないということや、形骸化させないためのPDCA サイクルの方法など、今後の活動の推進に活かしていきたいと思いました。
- ・やはり中学校区での連携は大切だと思いました。9年間関われば地域との関係も豊かになるのではないかと思います。そこに幼稚園も少し関わらせていただき、「大きくなったらあんな風に活躍できるんだ！」と成長することに喜びを感じてくれたら良いなと思いました。
- ・持続可能であるために、今後につないでいくためにという観点からも、「大きくなって自分がやってもらったことをしに戻ってくる」という中高生の姿や「楽しいかどうか。笑顔が嬉しい」という発表から、「やりがい」や「しあわせ感」が大切なポイントであることを再認識できました。
- ・質疑応答での「高齢化」に関する話題が、自校の課題と重なりました。運営委員会様を含め、高齢な方に依頼する状況が続いています。しかし、その先のことを考えると、スムーズな世代交代ができるようにすることは必須です。新しい人材の発掘にも力を入れていこうと思います。また、「公式 LINE」の話題が大変興味深かったです。学校と地域が手軽なツールで広くつながれるようになると、より一層の地域力強化につながると感じました。